

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2007年7月20日発行 第38号

特集記事

奨学金授与式報告

皆様からご寄付いただいた奨学金を子どもたちに授与するため、6月30日から運営委員の白柳さんがタイへ飛んでくれました。1週間という強硬スケジュールでタイのイサーン地方を一回りし、奨学生に直接奨学金を手渡ししてくるといふ奨学金授与式ツアーの報告を、授与式初参加で先日帰国したばかりの白柳さんが投稿してくれました。

報告者：運営委員 白柳

6月30日

午前10時半、奨学金授与式に向けてセントレア空港からタイへ出発しました。

1年半ぶりの訪タイ、奨学金プログラム担当者になってから初めての授与式参加に期待と不安を胸に抱きながらタイへ旅立ちました。

大好きなグリーンカレーの機内食を楽しみ、少し睡眠を取ったあとタイの景色が見えたときには、第二の故郷に帰ってきたかのように懐かしく感じ嬉しく思いました。午後2時、スワンナプーム空港に無事到着。

空港は横に広く出国手続きに40分もかかりました。空港を出て現地スタッフむさんの姿を探します。日本から一人で参加だったので、むさんと合流できたときは安心感でホッとしました。そこからシャトルバスでバスターミナルまで移動。荷物を下ろすとき、見知らぬタイ人が親切に重い荷物を次のバス停まで運んでくれて、タイ人の温かさに触れ、それまで日本で多忙な日々を追われていた私は、広大な土地とタイ人の優しい微笑みに心身ともに解き放たれストレスが緩和されるのを感じました。

午後5時、バスで明日行われる奨学金授与式地のサケーオに向かいます。久々に再会するむさんとの会話を楽しみながら、気がついたら日が暮れていて夕方7時半にサケーオに到着。迎えの車が来るまで屋台で夕飯をとりました。今日の夕食は大好きなカオパット（タイ風炒飯）。ゆっくりとした時間の流れの中、食事を楽しみその後トゥクトゥクでホテルまで移動しました。思っていたよりきれいなホテルで、室内でゆっくりした後は、明日の授与式でのスピーチを考え、就寝。



タイ料理（中央は竹の籠に入ったもち米）

～第1日目～

ホテルで朝食をとっていると、予定時刻よりもかなり早くサケーオの教育委員の人が迎えに来ました。今日は日曜日と言うのに教育委員の人はやる気満々！？

奨学金担当部長のサーコンさんは、とても感じのいい人でしばらく3人で歓談を楽しみワゴン車で教育委員会まで移動。すでに奨学生や学校の先生、父兄など30人近く集まっています。奨学生たちは緊張している様子。

遅れて来る子たちを待っている間に、生徒に渡す奨学金の入った封筒や書類をむさんが準備をし、場を和ませるため質疑応答などが行われました。

9時半になり、奨学金担当部長サーコンさんと海外出張に行っている教育委員長の代わりに教育副委員長のソラさんから挨拶があり、いよいよ奨学金授与式の始まりです。2人からの挨拶がのあと、私から生徒ひとりひとりに奨学金と

ドナーの連絡先が載った書類を手渡します。確かに渡した証拠として一緒に写真を撮り「タンチャン リアン ナ カー（しっかり勉強して下さいね）」と渡します。生徒が奨学金を受け取る時に両手を顔の前に合わせて「コップンカー」と挨拶をする姿がなんとも可愛らしくもあり、礼儀正しさを感じます。



スピーチする白柳（左） 現地スタッフのムさん

全員に渡し終えたあと、キャンを代表してスピーチをすることになりました。

「サワディーカー（こんにちは）。チャン チュー ミホ カー（私の名前はミホです）。マー ジャク イーブン（日本から来ました）。インディー ティーダイル ルーチャックカー（お会いできて光栄です）。チャン チャ クイ パーサイ イーブン（ここから日本語で話します）。はじめまして。キャンヘルプタイランドの白柳美穂と申します。

今日は、日曜日のなかお集まりいただきましてありがとうございました。日本の全国から奨学金を寄付して下さいの方々がいまして、その方々をドナーといいますが、今日はそのドナーの方々を代表してみなさんに直接奨学金を手渡すためにここに来ました。ドナーの方々はみなさんが一生懸命勉強してくれることを心から願っています。環境に負けず、しっかりと勉強してください。そして、その過程をドナーの方々に手紙を書いて報告して下さい。私たちはみなさんの幸せを心より願っています。最後になりますが、学生生活を楽しんでしっかりと勉強して下さい」。むさんが日本語からタイ語に翻訳して下さい、私からのスピーチが終わると奨学生全員、教育委員の方も含め写真撮影をしました。そして、奨学生を代表して高校2年生の女生徒ナルモンさんからあいさつがありました。

「キャンヘルプタイランドやドナーの皆様にお礼申し上げ

ます。私は6年間奨学金をもらい親の負担を減らすことができました。余ったお金は貯めて必要なときに使っています。優しくして下さい。日本のドナー様にお礼を伝えて下さい」。

ナルモンさんからのあいさつや教育委員会の人との会話で、いかに奨学金が必要とされていて役に立っているか、期待の大きさを身にしみて感じました。帰り際、学校の先生からラムヤイをお土産にいただき、みんなに見送られて教育委員会をあとにしました。

車で移動すること3時間。夕方5時にプリラム県に着きました。明日は午前中にプリラム、午後スリンで授与式。かなりハードな日程です。

～第2日目～

朝9時、ホテルのリムジンバスでプリラムの教育委員会へ向かいました。教育委員会に着くと3～4人の教育委員会の方々が暖かい笑顔で迎えてくれて奨学金授与式が行われる部屋へと案内されました。生徒が10数人と先生4～5人、こじんまりとした雰囲気でしたが、むさんが緊張している生徒たちに微笑みかけると、生徒の表情も次第に柔らかくなりました。

やがて、副教育委員長のパライヨーンさんと奨学金担当部長のジャレイさんがいらっしゃって、私がタイ語で簡単な自己紹介をするとジャレイさんから「タイ人かと思った」と言われ笑いの渦が起こり楽しい雰囲気に包まれました。

その後、副教育委員長から「今年奨学金を予定しているのは34人です。継続的に支援して下さいありがとうございます」と挨拶があり、昨日と同様ひとりひとりの学生に奨学金と書類を手渡します。渡し終えた後、全員で記念撮影をし、授与式終了。生徒や先生が近づいてお礼を言いに来てくれ、生徒と2人で携帯で写真を撮ったりしました。なかにはドナーや私たちひとりひとりに手作りのプレゼントを持ってきてくれた女生徒（高校2年生、マニーノさん）がいて、私が「将来何になりたいの？」と聞くと「ドクターになりたい」と目を輝かせながら答えていたのが印象に残りました。

教育委員会をあとにし、ワゴン車でスリンに移動。午後12時前にはスリンに到着し、送り届けてくれた教育委員会の方々に日本からのちょっとしたお土産を渡し、お別れしました。

午後からの授与式に備えむさんと昼食に向かう途中、スリ

ンの教育委員ジムさんがむさんに声をかけ近くのお店まで案内してくれました。今日のお昼は一度は食べてみたいと思っていた卵のちぢれ麺バミーナムです（日本のラーメンのようなもの）。おいしくて量が少なめということもあり、クイットィオを追加注文してしまいました。午後からの授与式に向けて精力をつけなくては！ここでは、ジムさんがごちそうしてくれて、教育委員会まで戻る道すがらにある市場に立ち寄り「ココナッツジュース試してみる？」と聞かれ、冷えているジュースをごちそうになりました。ココナッツジュースを持ち運んでの異例（？）の授与式。

午後1時半開始時間でしたが、遠くから来る学生がまだ来ていなくてしばらく雑談をして待ちました。20分後全員がそろい、いよいよスリンでの授与式の始まりです。どの地域も女生徒のほうが奨学金を受ける人数が多いのですが、なかでもスリンは圧倒的に女生徒の多さが目立ちました。

授与式後、質問タイムに移り生徒の父兄から「日本語で“コップン カップ”はなんて言うのですか？」と聞かれ、むさんが“ありがとう”ですと答えると生徒全員から「ありがとう」と言われ嬉しかったです。とても上手な発音に感心してひとり拍手をしていると、生徒たちが笑っていました。でも、子どもたちの笑顔が見れるのは幸せです。

むさんから提出書類についての説明の後、男子生徒ターバコーン(短大1年)君から生徒を代表して挨拶がありました。「私達は奨学金をもらえてとても嬉しく思っています。タイの生徒の教育の大切さをわかって下さってありがとうございます。自分の夢に近づけるように努力します」と言われ、子どもたちの感じていることを実際耳にし、この活動を長年続けてきて本当によかったなと心から思えた瞬間でした。午後2時半に授与式終了。

それからは翌日の授与式地遺跡で有名なシーサケットに向かって車で移動します。車中、会話を楽しんでいましたが、連日移動の疲れで気がついたら眠っていました。

午後5時頃、シーサケットのホテルに到着。ホテルは昔からある建物なのかちょっと古めで階段付近では工事しており、夜の廊下は暗く何かが出そうな予感でした。部屋で少し休憩をしたあとは、夕食を取りにむさんと外に出ます。今夜のメニューは屋台にてカオマンガイ。東北に来て、ガイヤーン(鶏肉の焼いたもの)やカオニャオ(もち米)などのイサーン料理を楽しんでいますが、カオマンガイも今回初めて食べるものだったので、とても楽しみでなかなかヘルシーで

おいしかったです。少し散策してホテルに戻りました。

まだタイに着いて数日なのに、もっと長く滞在しているように感じます。

明日はまたどんな子どもたちとの出会いがあるのかとても楽しみです。



記念品をいただきました

～第3日目～

朝8時45分、定刻通りにシーサケットの教育委員トックさんがホテルのロビーに迎えに来てくれました。車で教育委員会に向かい、副委員長のパージョンさんが室内に入ってきました。生徒がなかなかそろわず(どこの県も同じ)教育委員の人が遅れている生徒に電話で連絡を入れていました。その間、タイのお菓子(芋にココナッツミルクがかかったもの)をいただきとてもおいしかったです。

1時間程待ちましたが遅れている生徒がまだ到着せず先に授与式を始めることになりました。始まってまもなくしてやっと遅れている生徒が到着しましたが、提出書類を忘れていたため奨学金を渡すことが出来ず、あとで書類を郵送してもらったあと送金することになりました。

授与式が終わりスピーチのあと、ここでも生徒全員から日本語で「ありがとう」と言われ、日本語で言われるのはとても嬉しかったです。

今日は、授与式に遅れて来た女生徒の家に家庭訪問に行くことになりました。

お酒で肝臓を悪くした父と母、3歳の弟がおり、祖父母が快く迎えてくれました。田んぼを所有していて、田畑を耕したりシルクの糸で織物をして貴重な現金収入を得ています。今日は家族以外に親戚の方々まで集まってきて「どんな人が奨学金をくれるのか顔が見れて嬉しい」と「顔の見

える支援”の大切を実感した1日でした。

家庭訪問の後は枕で有名なヤソトーンに向かいます。車で約1時間の移動でしたが連日の移動は知らぬ間に疲労が溜まり、ホテルに着いた後は少し体を休めるつもりが数時間ほど眠ってしまいました。今夜は市場でランブータン（赤いフルーツで味覚は巨峰に似ています）を買い、野菜不足が続いているので、野菜や豆腐を中心としたヘルシーな夕食にしました。

明日は午前と午後で授与式です。明日に備えて今夜は早めに休もうと思います。

～第4日目～

昨夜早めに休んだからか少し体も楽になり、今朝はタイのお粥をいただきました。

9時前にヤソトーンの教育委員会又アンさんが迎えに来てくれました。ヤソトーンの副教育委員長はユーモアが好きな明るい方で、昔社会科の先生をしていた経験があり日本について詳しく季節の草花や富士山について話が盛り上がりました。副教育委員長の話では今、全国の教育委員長は中国に出張に行っているとのこと。

この話を聞いて、なぜ今まで授与式を行った県で教育委員長がいなかったのかがわかりました。

授与式後は、女生徒の家庭訪問です。

村の近くには立派な寺院があり、付近の家はボロボロでその格差に衝撃を受けました。移動の車中ではしばらく言葉が出てこなかったほどです。そこから午後に行う授与式地ロイエットに向かいました。途中でガイヤーンの有名なお店に立ち寄り、ガイヤーン、ソムタム、カオニャオの東北3点セットをおいしそうに食べる私に「何でも食べれることはいいこと」と教育委員会の方々が褒めて下さいました。

1時間後にロイエットに到着し、副教育委員長がネクタイを締めた正装した格好で待っており、室内も厳格な雰囲気です。

今日は地元のTV局が撮影に来ていて、もしかしたら今夜のTVに映るかも！？副教育委員長からの挨拶は「奨学金を受けれるのは経済的に困難で成績が優秀であること、そして性格がいいことです。支援して下さる方々が来ていますので、教育の大切さを分かって下さい。奨学金を有効的に使い国の発展のために努力して下さい」と生徒に呼びかけ、キャンの活動を大変理解して下さる内容で、副教育委員長からの言葉

は自分が活動している団体（キャン）を今一度再確認する場となり、私の胸に深く刻み込まれました。生徒からも「勉強のいい機会を与えて下さってありがとうございます。勉強のために有効的に使います」と挨拶があり、お互いの国のお土産を交換し合い交流を深めました。また今日も奨学金の大切さについて深く考えさせられた1日となりました。

明日は第5日目、マハサラカーンとカラシンで授与式です。毎日が貴重な体験であと数日で授与式が終わってしまうことが残念でもあり寂しくも感じています。



奨学金授与式に集まった子供たち

～第5日目～

朝、マハサラカーン教育委員会のパイドゥーンさんがホテルのロビーまで迎えて来てくれました。パイドゥーンさんは少し日本語が話せるので、車中日本語で会話をして楽しみました。

教育委員会に着くとこじんまりとした部屋に通され、生徒の人数は少なめで和やかな雰囲気です。ほとんどの副教育委員長が事前に用意された挨拶文を読むのに対して、マハサラカーンの副教育委員長は何も見ず、自分の考えと自分の言葉で奨学金のお礼を述べた後、生徒たちへ「お金の使い方」と「勉学に励むこと」「麻薬問題」について話し、その内容は素晴らしくとても感動しました。いかに自国を愛し、生徒たちのことを思いやっているのかがよく伝わってきました。授与式でひとりひとりに奨学金を手渡す毎に拍手をしていた副教育委員長はマハサラカーンが初めてです。副教育委員長自身、奨学金を受けたくても受けなかった過去を持っていらっしやるので奨学金に対する思いは大きいのかもかもしれません。

マハサラカーンで感動的な授与式を終えたあと、今朝迎えて来てくれた教育委員会のパイドゥーンさんとティアンジットさんが車で、午後から行われる授与式地カラシンまで送ってくれました。

カラシンには1時間ほどで着き、先に来ていた奨学生たちが私たちの荷物を教育委員会に運ぶのを手伝ってくれました。

ここは生徒の人数自体は少ないのですが、父兄がたくさん参加しており、多くの人たちに温かく見守られながら奨学金授与式を行うことができました。

カラシンでの授与式を終えたあとは、翌日の授与式に備えてムクダハーンに向かいます。車で約2時間半の長距離ですが、途中道路に牛が横断するハブニングもあったりと面白かったです。



奨学生の家を家庭訪問

カラシンのホテルに着いたのは夕方5時。さすがの連日授与式で5日目ということもあり私の疲労はピークに達していました。

ホテルで少し休みカラシンの授与式の時、自宅の庭で取れたマンゴーを持ってきてくれた生徒がいたので、完熟したマンゴーをおいしくいただきました。

エネルギーをつけたあと、せっかくムクダハーンまで来たので、むさんと一緒にメコン川を見に行きました。あまりの壮大な自然のスケールにしばし圧倒され身動きが取れませんが、川の先にはラオスが見えており空は赤くて美しく、ここでは写真ばかり撮っていました。

ラオスの国境に近いこともありベトナム料理店が多いので、今日の夕食はベトナム料理です。食べたいタイ料理が日に日になくなっていくので、たまには違う国の料理も楽しくおい

しかったです。

授与式の出張とはいえ、オフタイムでもいろんな経験をさせてもらったキャンには本当感謝しています。そして、むさんありがとう。むさんがいてくれるから授与式中や移動の旅も心強くきっと一人旅では出来ないことがむさんのおかげでできています。屋台での食事も自分好みの味付けで作ってもらえるので、おかげで今回の私はタイ滞在中まだ一度もお腹をこわしていません。

～第6日目～

疲れからかそれともマンゴーの食べすぎ(?)なのか夜中に腹痛で目が覚め、ついにお腹をこわしてしまいました。やや体調不良で朝も起きれずギリギリまで寝ていました。

ムクダハーン教育委員会のドライバーがホテルまで迎えて来てくれて、午前9時に教育委員会に到着。教育委員会の方が気を使って声をかけて下さってコーヒーを出してくれました。

生徒が全員揃うまで、奨学生とむさんと教育委員会の方を交えて学校生活の話など交流の時間を楽しみました。

やがて副教育委員長が入室し、挨拶が始まりました。キャンヘルプの活動内容をよく理解してくれていて、奨学金プログラムの他にワークキャンプ、ランチプログラムなどまで話して下さり、1997年にムクダハーンでワークキャンプを実施したこともよく覚えていて下さいました。継続奨学金のありがたみなど話を聞き終えた後、ひとりひとりに奨学金を手渡しました。全員で写真撮影をした後、午後の授与式地ナコンパノムに向かいます。移動途中、メコン川沿いを車で走り象を間近で見ることができ、ドライバーが気をきかせて車を止めてくれて数分休憩となりました。動物園で見ると至近距離で象を見ることができ、その表情はとても可愛く一緒に写真を撮ったり楽しいひとときを過ごしました。そこからの移動は、車中ずっと爆睡。授与式では笑顔を中心掛けているつもりでも、体は正直で移動の車の中ではほとんど眠っていることが多かったです。ナコンパノムに入り、昼食時間に差し掛かっていたので、ドライバーの方とむさんと3人でお昼をとることになりました。ドライバーは温厚な方でアットホームな雰囲気の中、赤いタレをかけたカオムデーをいただきました。

そして、午後1時半にナコンパノム教育委員会に到着。ここでは教育委員長からの挨拶でした(いくつかのグループに分かれて順番に海外出張に行くそうです)。

教育委員長は奨学金の機会を嬉しく思っていて下さり、教育委員長自身も昔奨学金をもらって勉強をしたそうです。奨学生（高校生）に手渡される「3000 バーツは私にとっては大きな金額」と他の県の副教育委員長が「3000 バーツは大きな金額ではない」と言っている中、奨学金のありがたみを強く感じとっているのが伝わりました。ナコンパノムの教育委員長は「ドナーの方には会ったことはないがその方たちへの恩返しを考えて、お金を大切に使って下さい」と奨学生に呼びかけていました。

ナコンパノムで授与式を終えた後はまた車で移動です。明日で最後の授与式地サコンナコンに向かいます。

夕方ホテルに着いた頃にはグッタリとしてしまい、動くこともできずベッドで少し休んでいました。夜 7 時頃、夕食を食べるためむさんと外に出ました。今日は屋台で大好きなタイ米と空芯草の野菜炒め、卵焼きを食べ少し元気を取り戻しました。食事の後の市場めぐりなどタイの熱気を肌で感じ、明日で最終かと思うとこの一週間あっという間に過ぎ去ったような気もしますが、心のどこかでホッとする自分もいました。今日は体調不良と疲れで授与式中も表情が乏しくなったり反省する点が多かったので、明日は体調を整え、笑顔で元よく参加し後悔のない授与式にしたいと思います。



奨学生と記念撮影

～第 7 日目～

体調も良く、午前 9 時過ぎにサコンナコン教育委員会の方が迎えに来てくれました。授与式を行う部屋には国王の写真が飾ってあり、副教育委員長のサギャムさんは穏やかで温かい人柄を感じました。

まず、はじめに副教育委員長から「サコンナコンで高校を卒業するのは 65～70%で、その原因は貧困家庭だからです。継続的に支援して下さいありがとうございます」と挨拶が

ありました。私がスピーチをするときも温かい目で見守り続けて下さり、授与式後は副教育委員長から直接イサーンの伝統的なきれいな布をいただき、全員で記念写真を撮り思い出に残る授与式となりました。

今日は午後から中学 1 年生の男子生徒ダム君の家庭訪問を行いました。祖母と兄で暮らしており、とても利発で気の利く彼は庭にあるラムヤイを取ってきてくれ、私たちにプレゼントしてくれました。ダム君の祖母は、ダム君が小学校を卒業したら家のために働いてもらおうと思っていたのですが、ダム自身はどうしても勉強がしくて祖母に内緒で学校の奨学金に登録していたそうです。ダム君は目をキラキラと輝かせていて、近所の子もたちの面倒も非常によくみています。

学校が遠いためバスで通っているようですが、奨学金のほとんどが通学費用で消えていくそうです。

今回一週間の授与式を通して、事務的には毎日同じことの繰り返しですが、県によって教育委員会や担当者の雰囲気も様々で、毎日が新しい生徒との出会いでちがうことをしているようで不思議な感覚でした。栄養失調で体がとても小さく文字が書けない男の子、グラフィックデザイナーの課題を終えるために徹夜でシャワーも浴びずに授与式にかけつけてくれた女の子。実際現地に赴いて、成績が優秀で学習意欲があったり何かの分野に秀でていて才能があったり、そんな未来に可能性がある子どもたちが“貧困”という理由で将来が閉ざされてしまうことほど悲しいことはありません。

“経済的に困難である学生に勉強の機会を与える”一生懸命生きる子どもたちをサポートする、そんなキャンで活動に携われる私はとても幸せです。学生時代、たまたま訪れたタイで貧富の格差を目の当たりにしキャンで活動することになりましたが、キャンの活動内容を理解して下さい支援をして下さるドナーの皆様、今回授与式を行うにあたり陰ながらサポートやアドバイスをしてくれた運営委員のみなさん、そして現地で終始行動を共にしコーディネーターや通訳をしてくれたり、私の体調を気づかって面倒を見てくれたむさん、この場をかりてお礼申し上げます。

大好きなタイで今日もまた一人でも多くの子どもたちの笑顔が増えてくれることを心から願っています。

今回の授与式で奨学金を授与した子どもの数

| 県名 | 授与人数 | 男性 | 女性 | 県名 | 授与人数 | 男性 | 女性 |
|--------|------|----|-----|---------|------|----|-----|
| サケーオ | 16人 | 6人 | 10人 | ロイエット | 9人 | 1人 | 8人 |
| ブリラム | 9人 | 2人 | 7人 | マハサラカーン | 6人 | 4人 | 2人 |
| スリン | 21人 | 4人 | 17人 | カラシン | 5人 | 3人 | 2人 |
| シーサケット | 10人 | 4人 | 6人 | ムクダハーン | 13人 | 3人 | 10人 |
| ヤソーン | 12人 | 3人 | 9人 | サコンナコン | 12人 | 3人 | 9人 |

今回の奨学金授与式で10県 112名の子どもに奨学金を手渡すことができました。残りの県は後日会長が授与式に回りました。

報 告

カサロンの家食堂建設完成報告

2007年3月に行われたチェンマイ県カサロンの家でのワークキャンプで建設していた食堂が完成し、現地から完成写真が届きましたので報告します。

予算の都合上、壁まではできませんでしたが、きれいで清潔な調理場と食堂ができました。この建物は名古屋のNPO「アルシュ」からの10万円の助成金と皆様からの建設寄付金をあてて建設されました。ご協力ありがとうございました。



建設中の食堂 3月



完成



予算ができれば壁もつくりたいです。



食堂内部

イベント

今後開催されるイベント情報

《第16回全国ボランティアフェスティバルあいち・なごや》

全国ボランティアフェスティバルは、ボランティア活動に対する住民の関心の高まりに応じて、全国各地において多様な団体の協働により、住民によるコミュニティづくりを推進するため、平成4年に兵庫県で第1回が開催され、今年愛知県で16回目の大会となります。愛知県下でイベントが開催されますが、キャンヘルプタイランドは9月23日(日曜日)に名古屋国際会議場センチュリーホール(白鳥ホール)においてブース出展を行います。活動紹介のパネル写真展示、希望の家の子供たちの作品販売・タイ雑貨の販売をつうじてキャンヘルプタイランドの活動を広報いたします。大勢の参加をお待ちしています。

《2007年ワールドコラボフェスタ》

愛知県国際交流協会・名古屋国際センター主催のイベントで今年4回目の開催となります。今年は10月27日(土)28日(日)の2日にわたって、栄・オアシス21、久屋大通り公園・もちのき広場を会場に行われます。キャンヘルプタイランドも27日、28日の二日間、もちのき広場にてブース出展で参加します。

毎年大勢の市民の参加があり、とてもにぎやかなイベントです。どうぞ遊びにおいで下さい。

活動報告

(2007年4月～7月)

| 活動 | 月日 | 場所 | 内容 |
|-------|-------|--------|----------------------|
| 運営委員会 | 4月28日 | 名古屋事務所 | 奨学金授与式、7月ワークキャンプについて |
| 運営委員会 | 5月26日 | 名古屋事務所 | 奨学金授与式について |
| 説明会 | 6月9日 | NPOプラザ | ワークキャンプ説明会 |
| 運営委員会 | 6月23日 | 名古屋事務所 | ワークキャンプについて |
| 研修会 | 7月7日 | 名古屋事務所 | ワークキャンプ研修会 |
| 運営委員会 | 7月21日 | 名古屋事務所 | ワークキャンプ出発準備 NT 通信発送 |

編集後記

- ▼ 最近のタイパーツの高騰はちょっと異常です。一昔前までは10,000円で3,000パーツ以上のお金が手に入ったのに、今では2,500パーツほどにしかありません。500パーツあれば、タイの屋台でクイティアオ(米の麺)が20杯も食べられます。
- イサーン地方の日雇い労働者の日給以上のお金ですね。タイ経済が好調なのはいいことですが、都市と地方の経済格差の溝はますます広がっていますし、南部では情勢も不安定です。早く国民に信頼の厚い安定した政権が樹立できるといいですね。まったく同じことが日本にも言えますが・・・。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信>

Vol.38

発行 キャンヘルプタイランド

発行人 西川 弘達

編集人 坂 茂樹

発行日 2007年7月

住所 〒450-0003

名古屋市中村区名駅南1-20-11

NPOプラザ名古屋2F南

Tel & fax 052-566-5131

(OPEN: 毎週火、木・土曜の13~17時)

E-mail: canhelp@npo-jp.net

ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>